

「いじめ」られ続けた気弱なオオカミが
見せたやさしさ…本当の強さとは…

やさしい

オオカミ



アニメーション15分



悪の代表・暴力の代名詞に
されているオオカミ。
実はやさしい心を持ち
本当の強さを持っていたのです。

☆あらすじ

紅葉が美しい秋の森。いろんな木の実がみのり、森の中は食べ物がいっぱいです。

ウサギの兄妹は、夢中で木の実を拾っています。すると、後ろから何者かが忍び寄ってきます。気配を察した妹ウサギのミミが振り向くと、そこには見るからにお腹をすかした様子のやせ細ったオオカミが立っているではありませんか。びっくりしたミミは悲鳴を上げます。が、オオカミは、ニッコリ笑って木の実を拾って食べ始めます。兄ウサギは、そんなオオカミを見て、「平気さ。あいつは野ネズミに鼻をかじられて逃げ出すようないくじなしのオオカミだ」このオオカミ、牙を見せて吠えたことがなく、臆病で喧嘩ひとつ出来ないのです。そんな気弱なオオカミをみんなは牙のないオオカミ『キバナシ』と呼んでバカにしていました。兄ウサギは、平然と歩み寄り、パンチやキックまでくり出します。友だちになりたかっただけのキバナシは、黙って立ち去ってしまいます。

臆病なキバナシは孤独でした。弱い奴はオオカミのグループに在る資格はないと群を追われ、ひとりぼっちだったのです。誰かと友だちになりたくても、オオカミのなりをしているため、誰も相手にしてくれません。

森を彷徨っていると、人間が仕掛けたワナにキツネが捕まっていた。キツネは、キバナシに「助けてくれ!」と頼みます。キバナシは「僕と友だちになってくれるなら助けてやる」と。友だちと聞いてちょっと迷ったキツネでしたが、考えているヒマなどありません。「なるよ、友だちでも親友にでもなるから早く助けてくれ」キバナシは、やっと友だちが出来ると信じ、キツネを助けてやりました。しかし、キツネは、お礼を言っただけで立ち去ろうとします。そんなキツネにキバナシは、「友だちになるって、約束…」「オレのオヤジ、おまえの仲間にやられたんだ。オヤジの仇と友だちになるわけにはいかないし、オオカミと友だちなんて知れたらみんなになんて言われるか…」とキツネは去ってしまいます。猟師が、ワナを調べています。キツネの毛を見つけ、

キツネがかかっていたのに誰かが横取りしたと思い、猟犬に追うよう指示します。猟犬は、たちまちキバナシを追い詰め吠えたてます。「オオカミじゃないか。

こいつがキツネを横取りしたんだな…ようし! 思い知らせてやる!」と言って、猟師は、キバナシに

銃を向けます。絶対絶命。キバナシは息を吞みます。ところが、なぜか急に猟犬はおとなしくなり、やがて猟師も銃を収め去ってゆきます。

岩山の頂上で、キバナシは泣いています。僕は、ヒツジよりも臆病で、気の弱いダメなオオカミだ…強くなりたいと。そんなとき、「おまえは臆病でも気が弱いでもない。心がやさしいのだ」と声が聞こえてきました。目の前の満月からです。

「やさしい心は、何より大切だ。恥じることではない。いくら強くて威張って見たところで、トラやクマに倒される。トラやクマがどんなに強くても、人間に倒される。暴力とはそういうものだ。猟犬は、おまえのやさしさを知って、吠えるのをやめ、猟師は銃をおろした。おまえが強いオオカミで、犬と戦い、人間に牙をむいていれば、銃で撃たれていただろう。強いことが良いことではない。だがやさしさは、弱いものを守り、自分を守る。それでも、やさしいより強い方がいいか?」キバナシが首を振ると、満月が少し微笑んだように見えました。

タカが空からウサギの兄妹を狙っています。まもなく急降下して妹のミミをさらってしまいます。「ミミ! 誰かミミを助て!」兄ウサギが追いかけてきましたが、タカは空高く舞い上がってしまいます。兄ウサギが、がっくりと膝を落としたその横を猛然と駆け抜ける影がありました。キバナシです。岩山を駆け登り、猛然とタカを追いかけてゆきます。

「あ、あいつが…うそだろ?」びっくりする兄ウサギです。岩山の頂上に来たキバナシが、さらに上を飛ぶタカに言います。「その子は友だちだ。放さないと許さないぞ。」タカは笑って、「オオカミが空を飛ぶというのか。第一、牙のない臆病なオオカミに何が出来る?」

「空を飛ぶ必要はない。いくらタカでも、一晩中、空にいるわけにはいかないだろう?」

そして怒りのこもった鋭い声で叫びました。「それに、地上に降りたおまえを懲らしめるくらいの牙ならある」と歯を剥いたキバナシの口には、どのオオカミよりも鋭い牙が光っていました。それを見たタカは恐ろしくなり思わずミミを放してしまいます。無事助けられたミミと兄ウサギが、キバナシの最初の友だちになりました。優しさと本当の強さを持つキバナシは、森の人気者になっていました。そう、あのキツネとも…。

●お問い合わせお申し込みは

(映)

有限
会社

博映商事

〒810-0073 福岡市中央区舞鶴1丁目3番31-220号
TEL (092)741-0306 FAX.(092)741-6628